

平成30年度 学校教育の基本指針

京都市立翔鸞小学校

○学校教育目標

自ら考え、意欲的に実践する子ども

○目指す子ども像

・自ら学ぶ子

自ら進んで、解決していく子
おもいや考えをしっかり伝え合う子

・やさしい子

人・自然を大切にする子
お互いのよさを認め合う子

・力を合わせる子

互いにかかわり、協力し合える子
とも（友・共）にまなぶ子

・たくましい子

自ら進んで心と体をつくる子
粘り強く取り組む子

○目指す学校像

- ・子どもの命を守りきる学校
- ・一人一人の子どもを徹底的に大切にする学校
- ・子どもに「学力」「生きる力」をつけるため、教職員が力を合わせ、指導力を向上させ組織として、計画的・継続的な取組を行う学校
- ・『働き方改革』を進め、より一層教育の質の向上を図る学校
- ・子どもたちが力を合わせ、楽しい気持ちで学び合える学校
(学校は、楽しいところ、厳しいところ、助け合うところ)
- ・保護者、地域、幼稚園（保育園）、中学校、大学等関係機関と連携・協働する学校
- ・校内美化に努め教育環境を整える学校

○目指す教職員像

- ・子どもへの愛情と教育への情熱をもつ教職員
 - ・一人一人に「届く授業」で、子どもに自信をもたせる教職員
 - ・一人一人のよさや可能性を認め、引き出す教職員
 - ・互いに切磋琢磨して高め合う教職員
 - ・自ら行動する教職員
 - ・常に危機管理意識を持つ教職員
 - ・子どもを守り、育てる教職員
 - ・実践と検証を積み重ねる教職員
- ・こんな子にしたい、こんな子に育てたいという熱い思いをもつ。
- ・授業を工夫し、一人一人に応じた力を確実につけ、できた、わかったと実感できる。
- ・子どもを包み込む、受け入れる、そこから何ができるか考え、自信につなげる。
- ・積極的に研修に出かけ、指導力につける。
- ・どんなこともまず、考えてばかりいないでやってみる。行動を起こす。やってみなければはじまらない。そのあとの振り返りが大切。
- ・どの子にも背景がある。つらい思いをさせない。

歴史と伝統に包まれた環境のなか、地域の学校への深い愛情のもと、様々な体験や活動を通して、「何を理解しているか。何ができるか。」（知識及び技能）「理解していること、できることをどう使うか。」（思考力・判断力・表現力等）「どのように社会・世界に関わり、より良い人生を送るか」（学びに向かう力、人間性等）の教科横断的な「資質・能力の三つの柱」を偏りなく育成し、一人一人が「わかる」「できる」「楽しい」を実感するとともに、成就感や満足感を味わい、自尊感情を高めたい。そして、学び取った力をもとに、自らたくましく生きる力へつなげたいと考える。

キーワード

自ら

自尊感情を高める

→たくましく生きる力へ

1. 本校指導の重点 ~みんなで実践・みんなで検証~

知 「確かな学力」の育成 主体的に学ぶ力の向上

- 確かな学びにつながる学習の充実
 - 意欲的に学ぶ集団作り
 - 基礎的・基本的な知識の習得
 - 「主体的・対話的で深い学び」の課程の実現
 - 課題発見・問題解決的・探究的な学習の充実
 - 体験学習の充実（地域の伝統と文化を生かした学習）
 - 帯タイム・課外学習の充実

- ・生活・総合的な学習の年間計画及び活動内容の充実と定着。
- ・グローバル化における実践的な英語力の育成
- ・理科、算数教育の充実
- ・つなげるための活動資料活用・単元構成確立
- ・一人一人の力の定着につながる課外学習

- 教師の授業改善（子ども主体の授業へ）
 - 板書の工夫
 - 授業の流れの統一化
 - ノート指導の充実

- ・十分な教材研究、教材づくり
- ・学年部会（低・中・高）での話し合い
- ・めあての提示、まとめ・振り返りの徹底
- ・算数科・体育科を中心とした授業改善の徹底

- 支援の必要な子どもの学力向上
 - 子どもの実態に応じた適切な支援

- ・研究と連携した取組
 - 支援の必要な児童を核とした学習
 - ユニバーサルデザインの授業（よつば学級に学ぶ）

- 家庭学習の充実
 - 自主的な学習のできる子どもへ
 - 家庭との連携

- ・児童に応じた課題の設定
- ・家庭学習の手引きを参考にして啓発
- ・学校だより、学年・学級だよりで周知

- 読書活動の充実
 - 朝読書の徹底（先生も読む）
 - 読み聞かせ（図書ボラとの連携）、100冊読書挑戦（読書ノートに記入・全員目標設定、挑戦）
 - 読書週間の取り組みの推進（図書委員会主体の取組）

徳 「豊かな心」の育成

○道徳教育の充実

- ・「しなやかな道徳教育」の実践

○規範意識の育成

- ・あいさつの徹底
- ・「学校のきまり」「学習のきまり」の徹底

○社会性を培う取組の充実

- ・ソーシャルスキル学習

○意図的・系統的な協同活動

- ・縦割り活動の充実
- ・児童会活動の充実
- ・掃除の徹底

○保幼小中連携の充実

○一人一人が生きる学級集団作り

- ・学級経営の充実

- ・道徳授業の充実

- ・翔鸞心のやくそくの実践

- ・学校組織として人権教育を高める

年間を通してスキルの育成

体 「健やかな体」の育成

○運動の楽しさを実感できる活動の充実

- ・縄跳びタイム
- ・運動会、チャレンジマラソン、部活動など

○保健教育、食に関する指導の推進

○安全教育・防災教育・防災管理の充実

- ・部活を教職員全体で分担・支援

- ・子どもの意欲を高め、力を伸ばす

- ・危機管理体制の確立（アレルギー対応等）

- ・「生活安全」「交通安全」「災害安全」の3つの領域を計画的に指導

学校・家庭・地域との連携と参画による地域ぐるみの学校づくり

○学校から

- 学校だより、学年・学級だより
こまめなホームページアップ
参観・懇談会・コミュニティーだより

- ・連絡だけではない、思いを伝える学級通信

- ・マイナス面ばかりでない電話・連絡帳

- ・ホームページはこまめに、積極的に！

全員がアップできるように！

情報は早く、正確に、まずアップする

情報発信は安心・信頼につながる

- ・地域行事への積極的な参加

子どものよさを見つけるきっかけ

地域の活動を知る

○地域から

- 学習支援ボランティア、図書館ボランティア
放課後まなび、土曜学習、部活、地域指導者
地域行事への積極的な参加

知ることから始まる

知らせる努力

◆学校教育目標の具現化に向けて

○ 『自ら学ぶ子』

①個を大切にしたより良い集団の育成

- 子どもの立場に立った児童理解を深め、愛情ある共感的な関わりを持って、個性を伸ばし、個を大切にした学級づくりと思いやりとぬくもりが感じられる集団を育てる。
- 集団の中で個性を伸ばし、成就感を味わわせる特別活動や部活動の充実を図る。

②学習指導の充実

- 授業改善や指導体制の工夫（T・T、少人数指導、交換授業など）により「わかる喜びと学ぶ楽しさ」を実感できるように個に応じた指導を工夫する。
- 問題解決的な学習や探究活動を充実させるとともに習得した知識・技能を活用し、言語活動を重視した授業の展開を工夫する。
- 英語を用いて積極的にコミュニケーションを図れるよう外国語活動を充実させる。
- 45分を大切にするとともに児童が主体的に学習に取り組む授業を実践する。
- 基礎的・基本的な学力の確実な定着を図る。
- 家庭学習が大切な生活習慣として定着するよう家庭に働きかける。

③総合育成支援教育の充実

- 個別の指導計画を立案し、個に応じた教育を充実させる。
- 総合育成支援教育主任を中心とした校内体制で、個に応じた支援を充実する。
- 総合育成支援員・特別支援加配・学生ボランティアを有効活用し、学力向上の取組を推進する。

○ 『やさしい子』

①道徳教育の充実

- 道徳科の授業内容の充実を図る。
- 携帯やインターネットに対する情報モラル教育の充実を図る。

②人権尊重の精神の育成

- 全ての教育活動の中で、子どもの人権が守られるとともに、人権を大切にする子ども、自分の人権が守れる子どもを育てる。
- 男女平等教育、総合育成支援教育、外国人教育、同和教育の推進を図る。

③生徒指導の取組の充実

- 児童の様子をよく観察し、問題行動・いじめ・不登校を未然に防ぐ。また、初期対応に努める。
- 教職員が子どもの背景にまで踏み込んだ児童理解を深め、受容・共感の姿勢で子どもとの関わりを深める。
- 「学校いじめ防止等基本方針」に基づき、学校体制として「見逃しのない観察」「手遅れのない対応」「心の通った指導」を進める。そして、いじめを許さない集団づくりを進め、問題の早期発見・早期対応に取組む。
- 児童虐待防止のため、児童の生活背景の把握と細かな観察を励行する。
- 不登校の実態や課題を把握し、学校復帰に向けて組織として積極的に取り組む。
- 心の居場所づくり（担任、養護教諭、スクールカウンセラー、教職員の共感的な関わり）に努める。

④豊かな感性・強い精神力・自己抑制力・規範意識の育成

- 読書活動を推進し、豊かな心を養う。
- 縦割り活動を充実し、自分や友達を思いやる心を育てる。
- 地域の方々の協力により、生き方探究教育に関わる取組や伝統文化等の体験活動を推進する。
- 様々な体験活動や人との関わりを通して、規範意識や忍耐力を培う。

○ 『力を合わせる子』

① 授業でのかかわり合う活動の充実

- ペアやグループ学習での話し合い活動で、友だちの話を聞いて、それについて意見を述べる、「受けて、返す」話し合い活動をする。
- 体育の授業で、友達と一緒に体を動かしながら考えたり、わかつたり試行錯誤しながらかかわりを深めていく。運動が得意な児童とそうでない児童が気持ちをわかり合いながらかかわる活動により、豊かな心を育む。

② 遊びや運動を通してかかわり合う活動の充実

- ドッジボール・サッカー・大縄跳びなどの集団的活動でかかわり協力し合いながら楽しさやコミュニケーション力、技能を高める。
- 運動遊びハンドブックの活用

○ 『たくましい子』

① 運動・スポーツの実践

- 全ての子どもたちが運動・スポーツの楽しさや喜びを味わえる指導の充実を目指す。
- 部活動の推進、様々な記録会や交流会などへの積極的な参加、陸上練習の継続。
- 運動遊びハンドブックの活用

② 基本的生活習慣の育成

- 家庭との連携を強め、食事・運動・睡眠の調和のとれた生活実践を目指す。
- 「早寝・早起き・朝ご飯」などの基本的生活習慣の大切さの理解を図る。

③ 食育学習の充実

- 栄養教諭と連携した食育指導の充実を図る。

④ 健康教育の充実

- フッ化物洗口や給食後の歯磨き励行による虫歯予防の実践を目指す。
- 性教育や薬物乱用防止教育などの健康教育の充実を図る。

⑤ 安全教育の充実

- 安全ノートを活用した安全教育による、自分の身は自分で守ろうとする態度を育てる。
- P T Aや見守り隊の方々の元、地域ぐるみの学校安全の実現を目指す。